

人と人
つながりの物語

illustration: Maiko Dake

コープデリグループの組合員数は約520万人。組合員の皆さんの数だけ、物語がある。その物語を毎月一つお届けしていきます。描いているのは皆さんのくらしとコープデリの接点。あなたの物語はどんな物語ですか。

登高子^{のりたかこ}さんがコープの組合員になって40年以上が経つ。転勤族だったので、結婚した20代後半から広島、熊本、福岡、神戸、千葉と国内を転々とした後、約30年前にコープのお店で働き始め、12年前からコープ花見川店（千葉県）でコープ共済のご案内や受付などの業務を担当している。「私はとてもコープが好き。サービスカウンターにいるのですが、いつも中で待っているのではなく、サツカー台あたりで買い物かごの整理をしたりしながら、組合員の皆さんとお話するんです。もともとはとても人見知りで、初めてお目にかかる組合員さんとお話するのは今でもドキドキしますが、やっと慣れたんです。誰とでも話ができるようになったのはこの仕事のおかげなんですよ」

.....&.....

今から10年前、まだ小学生だった。なっちゃん^{なつちゃん}と初めて会話しただのも、来店する組合員さんのお子さんだったからだ。なっちゃんは、家族と一緒に店へ買い物に来た。「登さんおはよう！」「今日は誰

と来たの？」そんな会話から始まり、いつも顔を見せてくれた。登さんがカウンターでパンフレットに挟むおりがみを折っている。「手伝ってあげる！」と言って一緒に折って折ってくれたなっちゃん。とても器用な子だった。「私、踊れるんだよ」と習っているクラシックバレエの話をしてくれたこともある。

「本当にかわいくって。あるときは『私ね、今度お姉ちゃんになるの』と弟が生まれることを大事そうに話してくれ、『生まれたの、すっごくかわいいの！』と、本当にうれしそうに笑っていました。おばあちゃんもやってきて、なっちゃんが弟さんのことを作文に書いて賞を取ったことを教えてくれました」

少しずつ成長していくなっちゃんは、決まって「のーぼりーさーん」とやってきた。「コープが大好きだから自分のポイントカードを作りたい」と相談に来たこともあった。

登さんは、この子はどんな大人になるのかな？ 将来どんな仕事に就くのかな？ と思いつつ見てきた。高校生になったなっちゃんは、あるときレジ担当のアルバイトとして店に入ってきた。登さんはいう。

「なっちゃんがこれから大人になっていくうえで、働く、ということを考えたのでしょぅね。

ご両親もコープなら安心して思ったみたい。働き始めても変わらず「登さん」って呼んでくれます。レジのアルバイトを経験したことで、きつとこの先に自分が何をやりたいのかヒントになるんじゃないかな。今の社会、つらいこともたくさんあるけれど、彼女が楽しく生きていけるといいなって思います」

そして、優しい笑顔でこう続けた。「コープが世代を超えて愛され続けているところを見られるのもうれしい。長くここにいらるこそ、なっちゃんの成長も見ることができたと思っんです。何か心配ごとや相談したいことがあるから、立ち寄ってください。組合員さんも多いです。だから、少し元気になって帰ってもらえたらいいなって思っています」

登さんは自分の経験から、心を割って話すのを助けてくれる人が現れる、だから話をするのが大切だと知っている。今日も登さんはあたたかなまなざしで、カウンターに立っている。

※.....購入した商品を買った物袋に貼る台

過去の物語も
こちらから読めます



あなたのエピソードを
お寄せください。

コープ職員との心に残る出来事を随時募集しています。氏名・電話番号・組合員コードを記入し、郵便（〒336-8526 埼玉県さいたま市南区根岸1-4-13 コープデリ連合会 コミュニケーション推進部宛）か、左記のWeb応募フォームよりお送りください。